



Vol. 6

PROFILE

1966年岡山県出身。日本体育大学卒業後、株式会社リクルート入社。バルセロナオリンピック、アトランタオリンピックの女子マラソンで、銀メダルと銅メダルを獲得。1998年にNPO法人ハート・オブ・ゴールド設立。カンボジアを中心に国際協力に取り組む。2002～10年まで国連人口基金親善大使。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

私が国際協力と出会ったのは、今から15年前。カンボジアの地雷被害者への支援を目的に開催された「アンコールワット国際ハーフマラソン」がきっかけでした。招待選手として、世界遺産にも登録されているアンコール遺跡がある美しい街並みを背に、現地の人たちと一緒に走る機会に恵まれたのです。

明日生きるための食べ物もない中で、開発途上国では日本のようにスポーツは普及していません。カンボジアでもそう。マラソンは初めての人ほとんどで「何で走らなきゃいけないの?」という顔をしている人もたくさんいました。

でも走り終えると、一つのことをやり遂げたという達成感で、どの人も見違えるように生き生きと輝いていた。ここまでの力があるなんてー。その瞬間、現役時代からずっと、自分を喜ばせるために走り続けてきた私は、スポーツが他の人をも喜ばせる手段にもなり

得るんだということを知ったんです。私を幸せにしてくれたスポーツを通じて、もっと多くの人が生き生きできる場をつくっていききたい。そんな思いが強くなり、NPO法人ハート・オブ・ゴールドを立ち上げました。

とは言っても、ただ一緒にスポーツをするのでは意味がありません。何でもいい。スポーツを通じて、彼らに“学んで”もらうことが大切だと考えました。そこでハート・オブ・ゴールドでは、教育分野の支援に重きを置き、小学校の体育科教育指導書の作成、HIV/エイズ予防教育などに取り組んでいます。

また自分の活動以外に、先輩の瀬古利彦さんの提唱でスタートした「Ekiden for Peace」にも参加させていただいています。「日本発祥の駅伝は、難民問題の解決に最適なスポーツだ」。瀬古さんの言葉を聞き、「タスキ」で“人と人”をつなぎながら走る駅伝の意味を改めて考えました。

タスキでつなぐ人のきずな

有森 裕子

女子マラソン五輪メダリスト

ARIMORI Yuko



Ekiden for Peace 2010/写真提供:ジョイセフ

昨年2月、タンザニアのブルンジ国境近くの難民居住区で行われた駅伝大会では、子どもから大人まで、難民として暮らす人々と一本の真っ赤なタスキをつないで走りました。母国を離れ、厳しい環境下で生きる彼らに、仲間と同じゴールを目指し、タスキを通じて心と心がつながる感動を味わってもらえたなら、これほどうれしいことはありません。

これから国際協力に取り組んでみたいと思っている若者たちへー。自分を好きにならなければ、他人を思いやる気持ちは生まれません。まずは自分自身を知る努力をしてください。日本の国際協力を盛り上げていくために、未知なる若い力に期待しています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ [なんとかしなきゃ.jp](http://nankotoshinakya.jp)